



青森県立尾上総合高等学校

尾総高だより

令和6年 4月20日(土) 発行

青森県平川市高木松元7-6

定時制第1号

TEL0172-57-3500 FAX0172-57-5527

「他者を尊重し、心地よい居場所づくりを」

校長 杉森 晋



前期始業式において、生徒の皆さんには「他者を尊重する」ことをお願いしました。この誌面でも改めてそのことをお願いします。

本校には、さまざまな中学校を卒業した生徒が集まってきます。中には中南地区以外の中学校出身者や、一度他の高校に在籍した後に本校の一員となった生徒もいます。つまり、生徒それぞれ皆違うのだと理解しておかなければなりません。我々「ヒト」は社会性生物ですので、集団を作ろうとします。その際に考え方の似た人で集まろうとしますが、一

部には考え方の異なる人を排除しようとすることも見受けられます。考え方が異なろうとも排除していいのでしょうか。現在、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナなど、世界の至る所で紛争が起きており、相手を排除しようとする思惑も感じざるを得ない程多くの命が犠牲となっております。命を犠牲にするまでの紛争は必要でしょうか。相手（他者）を尊重しわかり合うことが必要だと考えます。

さて、始業式でも話しましたが、考え方の似た人からは「共感」が得られます。一方で、考え方の異なる人からは「教訓」が得られます。つまり、どんな人からも何かしら得られることがあるのです。よって、他者を排除すべきではないことを再認識します。

現代社会において、「多様性」という言葉がよく用いられるようになってきました。その多様性とは、ある集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在することです。この「集団の中に異なる特徴・特性」ということを考えたとき、今から25年ほど前に、担任した卒業生の勤めている会社を訪問したことを思い出します。その訪問の際に、その社長さんが「社員が皆東大卒であっても、会社は成り立たないんだよ」とお話になったからです。恐らくその社長さんは、「東大卒」とは「幹部候補生」との意味で表現したかったのだと思いますが、その後の会話から「会社には幹部候補生もいて、企画、製造、営業、販売、事務などそれぞれ専門の技術職も必要なのだ」と表現したかったことが窺えました。「東大卒」との表現は別として、その意図する考え方はその通りだと思います。

さて、本校にもさまざまな生徒がおり、多様性が見られます。恐らく考え方の異なる人もいるでしょう。しかし、考え方の異なる人を絶対に排除してはなりません。小馬鹿にしたり、いじめることなどは以ての外です。本校生徒には、考え方の異なる人からも何かしら「教訓」が得られる、と考えられるようになってほしいので、多様性をしっかりと理解し、他者を尊重していきましょう。そして今年度も我々教職員と一緒に、尾上総合高校を心地よい居場所につくりあげていきましょう。